【作者】 **安達漢城**　（一八六四～一九四八）　熊本の人。済済黌（せいせいこう）に学ぶ。佐々友房（さっさともふさ）に師事し国権党に入る。以来政界に活躍し、憲政会の領袖（りょうしゅう）となり、逓信（ていしん）、内務大臣に就任した。昭和八年同志と国民同盟を結成、総裁に推（お）される。昭和八年横浜に八聖殿（はっせいでん）を、ついで熊本に三賢堂（さんけんどう）を建て吟詩の普及発展に尽くされた功績は大きい。晩年は本会顧問を委嘱、昭和二三年八月没す。年八五歳。

【語釈】 ＊日…太陽　＊洋　洋…広々とゆるやかにのびのびしたさま　＊鵬…想像上の大鳥
＊鯤…想像上の大魚（鯤鵬＝大きなもののたとえ）　＊碧　空…あおぞら（碧は青く美しい石）

【通釈】 太平洋は波また波の広大さで太陽も波間から昇り、波間に沈むのである。海水は広々として紫一色が遥か遠くまで続いている。鵬（おおとり）の飛んでいる姿や、鯤（こん）の波間からも躍（おど）り出る姿も無く、静かな太平洋の上は青空が涯（はて）しなく広がり、白雲がゆったり流れてゆく。